

小児がんの晩期合併症について

○小児がんでは、病気そのものが治癒したとみられる場合でも、がん（腫瘍）そのものからの影響や、薬物療法、放射線治療など治療の影響によって生じる合併症がみられ、これを「晩期合併症」といいます。

○晩期合併症には、主に以下の症状などがあります。

成長発達の変常（内分泌異常を含む）

：身長発育障害、無月経、不妊、肥満、やせ、糖尿病

中枢神経系の変常：白質脳症、てんかん、学習障害

その他の臓器異常：心機能異常、呼吸機能異常、肝機能障害、肝炎、

免疫機能低下

続発腫瘍（二次がん）：白血病、脳腫瘍、甲状腺がん、その他のがん

○晩期合併症の多くは、がんの種類、治療の内容、その治療を受けたときの年齢などに関係します。ほとんどの晩期合併症は、年齢に伴って発症しやすくなり、治療終了後何十年も経過してから症状があらわれることもあります。